

飯山市総合計画等評価検証委員会からの意見に対する対応方針

No.	内 容	対応方針	令和8年度 から 実施予定
1	地域おこし協力隊は、魅力的な方がたくさんいるが、どんな方がいてどんなことをしているかが市民に認知されていないので、もっとPRが必要。また、協力隊員の定住に向けて、アフターフォローや定住への道筋が見えるようにしてほしい。	ホームページやSNS、広報紙で隊員の活動を紹介してきましたが、十分に市民へ届いていない現状があります。昨年度は活動報告会を開催し、今年度は紙ベースの周知が有効との助言を受け、市報の折込みを活用し隊員紹介を実施しました。今後も紙媒体での情報発信を強化していきたいと考えています。 隊員の定住に向けた支援体制については、市に加え、中間支援組織である協力隊のOGが代表を務める合同会社iiiroにより、日常的な相談対応や定住を見据えた活動サポートを行っています。また、国や県により起業に関する各種研修が実施されているほか、市では起業支援のための補助制度を通じて隊員の起業を積極的に支援しており、定住に向けた包括的なサポートを行っております。ご意見を踏まえ、来年度から卒業した隊員のアフターフォローについて検討したいと考えています。	●
2	町中に宿泊施設が少なく、お客さんが来ても長野で泊まることが多いため施設の整備が必要と思う。	飯山駅東側の市有地につきましては、駅前ホテル建設に関わる裁判中のため一時休止状態になっています。 現在、市営ホテルの建設計画はありませんが、引き続き「飯山市北陸新幹線飯山駅周辺地区における商業施設等の立地の促進に関する条例」や「飯山駅周辺地区宿泊施設整備事業補助金交付要綱」等の優遇措置を提示しながら民間事業者による土地の活用を促進していきたいと考えています。 飯山駅周辺のにぎわい創出、拠点としての魅力向上を目指し、必要な対応策を検討していきます。	-
3	長峰のクロスカントリースキーコースは良いコースなので、スキーの楽しさを伝える観光資源になるのではないかと。木島平のように料金の徴収も検討してはどうか。	クロスカントリースキーコースの料金徴収について、過去に検討した経過がありますが、料金徴収の方法や窓口の設置など課題が多く、実施には至りませんでした。料金を徴収している事例もあることから、他自治体を参考に、再度研究したいと考えています。	-
4	小学校の体育で使用するクロスカントリースキーの用具が親の負担になっているので、学校でレンタルすることはできないか。	同様のご意見を保護者の方からもいただいており、課題として認識している一方、学校の先生の業務増加も大きな課題となっており、学校や教育委員会が主体となりレンタルを行うことは難しい状況です。 飯山小学校では、不要になったスキー等の学用品を融通する取組みを、PTAが主体となり長年行っている事例もありますので、こうした取組みを参考にし、保護者の方の力添えもいただきながら、保護者負担軽減のため、よりよい取組みを検討していきたいと考えています。	-
5	子育て支援施策を知らない親が多く、有効活用されていないと感じるため、対象の方に届くようなPR方法を工夫してほしい。例えば、子育て中の親ならLINE等。	乳幼児を対象とした事業につきましては、母子手帳発行時や2ヶ月児ママの会、訪問の際に直接ご案内させていただき、乳幼児健診カレンダーの配布や母子手帳アプリ「母子モ」の活用により、幅広く情報を発信しています。また、子育てに関する施策や情報をまとめた子育て応援ガイドブック「みんなで子育て」を、母子手帳交付時や各種公共施設で配付したり、保育園等就園児が未就園児のご家庭にお届けしています。内容は随時更新しており、ホームページから最新の情報が確認できます。(印刷物は2年に1回) 子育て支援施策については、これまでもPRをしてきましたが、市からの情報発信で多くの方に興味を持ってアクセスしていただくのが難しいと感じています。大切なのは多くの方が活用したくなるような魅力的な施策であると考えますので、当事者が利用しやすい施策の実施に努めます。	-
6	マタニティータクシーを24時間使えるようにしてほしい。	現在マタニティータクシーの運行時間は会社により違いはありますが午前6時から午前0時30分までとなっております。過去にもタクシー会社と協議した経過はございますが、運転手の確保が困難であることから24時間の対応は厳しい状況です。 深夜で緊急を要す場合は救急車を呼んでいただくなどの対応でご理解いただければと考えております。	-

飯山市総合計画等評価検証委員会からの意見に対する対応方針

No.	内 容	対応方針	令和8年度 から 実施予定
7	<p>冬場、子どもが室内で遊べるところが「きらら」しかない。廃校を活用して、中野市のハブリックのような室内で遊べる施設やフリースクール、障がい者の居場所などを作ってほしい。</p> <p>もしくは、校舎の一部を開放し、子どもが冬季に遊べる場として提供してはどうか。人が多く集まる場所となれば、廃校活用の提案や参画企業が増え、活用の幅が広がるのではないかな。</p>	<p>R8年3月(予定)に旧4小学校利活用ビジョン検討市民会議を設置し、旧4小学校の活用や受け入れるべき業種や業態、そして地域との調和を重視し、持続的発展に寄与するために利活用ビジョンを検討していきます。</p> <p>子育て世帯にとって天候に左右されず安全に遊べる室内遊び場の確保は重要であると認識しております。廃校施設の活用を含め、関係部局と共有し、今後の検討の参考とさせていただきます。</p> <p>障がい者の居場所としては、地域活動支援センター(雁木プラザ・すまいるtaro)がありますが、更なるニーズについて来年度の障がい福祉計画見直しの中で研究していきます。</p>	-
8	<p>飯山で特色のある教育ができれば、都会から仕事をも持ったまま飯山に住むことができるようになるのではないかな。コミュニケーションがとれる英語教育や、受験コースなど、他にはない魅力ある教育方法によって移住者が増えるのではないかな。移住定住に関して、教育でできることがあるのではないかな。</p>	<p>飯山市が特色のある教育を展開できれば、他地域との差別化になり、移住を検討するきっかけとなる可能性がある一方で、教育体制の整備や教員配置、財政面での課題などへの対応も必要です。また、都会から移住を検討する方々が求めている教育ニーズの把握も重要であると考えます。</p> <p>いただいたご意見を参考にしながら、地域教育の可能性を模索するとともに、地域全体で取り組める施策について研究していきます。</p>	-
9	<p>飯綱では、学校給食と農家を繋ぐ地域おこし協力隊がいる。地域おこし協力隊や新規就農者は新しい野菜を作っていたり有機栽培等を頑張っている若い農家もいるので飯山市でも学校給食へ繋いでほしい。</p>	<p>学校給食において、地元産や有機栽培等の農産物を取り扱うことは、地産地消の推進や食育の観点から意義深い取り組みであると認識しています。一方で、学校給食は安定的かつ安全に提供する必要があるため、必要な数量や品質を安定的に供給できる体制の確保、集配体制の構築、急な数量変更への対応、給食用食材として求められる衛生管理や品質基準への適合などが必要となります。</p> <p>市としても、学校給食の安定的な提供を最優先としながら、地元農産物の活用を進めるため、新規就農者や地域おこし協力隊、コーディネーターの活用を含めた体制の整備や調整を進め、関係部署と連携し、より持続可能で円滑な取り組みの実現を目指していきます。</p> <p>(※給食コーディネーターについては、業務内容等の整理や会計年度任用職員(集落支援員)として雇用できるかなど、今後検討を進めていきたい。)</p>	-
10	<p>飯山市の公式SNSで農業に特化したものを配信できないか。農業研修のPRをしたり今どんな作業をしているか、どんなものを作っているかとか。農業を知らない人向けに、畑を耕して、この時期に種をまいて、苗を植えて、この時期に肥料をやるなど一連の作業を発信することで、移住定住したい人へのPRやきっかけになると思う。</p>	<p>農業と農産物に特化した公式の情報総合サイト「いいやまの種」を令和2年(2020年)に開設し、地元農産物や郷土料理の紹介や就農支援制度や農業に関するイベント等についての情報を発信しておりますが、来年度から市公式SNSとのリンク等による連携をしていきます。</p>	●
11	<p>廃校について、子どもたちも遊んでいたり柿の木もあつたり危険なので、後管理もしっかりやってほしい。</p>	<p>旧4小学校については、適正な維持管理に努めていきます。(柿の木は伐採済。)</p>	-
12	<p>放課後アフタースクールはとてありがたい。講師もボランティアではなく、長く続けてもらえるような仕組みにしてほしい。地域おこし協力隊の知識や特技も子どもたちに教えていただけるとありがたい。伝統野菜作りを体験することで、子どもが農業に関心を持つようになったり、伝統産業を含む地域の産業に関する講座などは、後継者の育成のためにもなるのではと思う。</p>	<p>アフタースクールの講師の方々には交通費程度の謝金をお支払いする中で、ご理解いただける方をお願いしており、現在は50人ほどに登録をいただいています。児童のキャリア教育や地域とのつながりを目的としていますので、ご提案いただいた地域の産業につながる講座について関係部署と連携を取りながら計画し、より多くの子どもたちが参加できるようにしてまいります。</p>	-

飯山市総合計画等評価検証委員会からの意見に対する対応方針

No.	内 容	対応方針	令和8年度 から 実施予定
13	<p>子どもが学校に行けないと親も仕事に行けない現状がある。廃校の利活用で学校に行けない子が行けるフリースクールがあれば良いと思う。長野市では、信州大学教育学部と長野市教育委員会が連携して七二会の廃校になった分校を改修し、昨年度SaSaLANDという教育支援施設をオープンした。不登校の子を受け入れたり、先生たちの研修をしたり、保護者の相談を行っている。そこへ行けば出席扱いになるので行きやすいし、畑をやったりマイクラフトで街づくりをシュミレーションしたりとやっているのぜひ見ていただきたい。</p>	<p>子ども館きらら内に市教育支援センターを設置し、学校や関係機関と連携しながら、不登校や不登校傾向にある児童生徒の学びや居場所づくりを進めており、民間のフリースクールを含め出席として取り扱っているところだ。</p> <p>ご意見いただいた廃校活用、また他市の教育支援施設と同様の機能充実を図るためには、施設整備や維持管理に係る経費に加え、専門的な知識や経験を有する人材の確保など、課題があると認識しております。先進的な取組みを参考にしつつ、本市の実情を踏まえながら、既存の教育支援センターの機能や支援内容の充実について検証し、児童生徒が安心して学び、社会とつながることができる支援体制の充実に努めていきます。</p> <p>また、旧4小学校の後利用についても、フリースクール等を含め検討を進めていきます。</p>	-
14	<p>障がい者のスポーツ推進にもぜひ力をいれていただきたい。気軽に市内で楽しめる施設や理解が障がい者スポーツにも広がれば良い。スポーツ教室やイベント開催にぜひ障がい者スポーツも入れていただきたい。</p>	<p>市では、スポーツ推進委員の制度を設け、公民館行事等に委員を派遣し、「年齢や体力にかかわらず誰もが楽しめること」を目的としたニュースポーツの指導を行っています。障がい者スポーツとして有名な「ボッチャ」もニュースポーツの一つで、スポーツ推進課では用具を5セット所有しています。スポーツ推進委員派遣事業を通じ、ボッチャを楽しみながら知ってもらうことで、障がい者スポーツの魅力を伝えていきたいと考えています。</p> <p>また、障がい者スポーツは、スポーツ施設のバリアフリー化と安全に競技ができるよう専門知識を持つ指導員や審判員も必要です。一方で、例年開催している北信地区障がい者スポーツ大会への参加者は減少傾向にあります。障がいの程度に応じて楽しめるスポーツなど、県障がい者福祉センター(サンアップル)が行うスポーツ教室や体験会の周知を行っています。</p>	-
15	<p>今ある施設を活用するという観点で、美術館や公民館、ふるさと館を活用し、冬に行く場所が少ないことから、「冬こそ勝負」と施設でもっと企画を増やすことをしたら良いのではないかと。いつも細かい企画をされて楽しんで参加させてもらっている。</p>	<p>冬季間の企画として、ふるさと館では「まゆ玉づくり」や「やしようまづくり」など季節に合わせた伝統行事の講座を開催しています。公民館では、市民を講師として講座を開催する「まなびバ」を今年度から始め、より多彩な講座をご提供できるようになりました。</p> <p>美術館では、冬季間は美術館所蔵作品によるコレクション展示を行っていますが、企画展と比べ興味関心を持っていただくことが難しい状況ですので、特定の美術家や作品に焦点を当てた「企画コーナー」を設けるなどの工夫を検討していきます。</p> <p>真冬の講座につきましては、当日が大雪等になった場合、参加者の安全等への配慮から講座の開催を延期または中止とする場合があるため、真冬の講座は多く開催していないのが実情です。</p> <p>いただいたご意見を参考に、学びのエリア全体で多くの方にご参加いただける企画を考えていきます。</p>	-
16	<p>前より空き家情報やYouTubeの飲食店紹介など見る機会がなくなってきた。良い取り組みに感じていたものが、やらなくなってきた。世の中がSNSに力を入れていて民間では専任の職員を置いている。職員が異動しても継続していけると良い。</p>	<p>SNSでの映像等による情報発信は専門的な業務となるため、職員での対応が難しい状況です。「映像や写真での飯山の魅力向上のための情報発信」をミッションに取り組んでいる地域おこし協力隊員と連携を図り、継続的なSNSでの情報発信を行っています。</p>	-

飯山市総合計画等評価検証委員会からの意見に対する対応方針

No.	内 容	対応方針	令和8年度 から 実施予定
17	<p>子育て世代も雪かき支援の対象にしてほしい。父親は仕事に行ってしまい、母と子だけで家の中で雪が降り積もる中、助けてくれる人がいないと雪国で住むのは厳しいなど思ってしまう。雪下ろしというよりは、日中の雪の処理。若くて体を動かしたい人とか、お金を稼ぎたい人とのマッチングみたいなのがあれば良いと思う。そこに市の支援もあればなお良い。</p>	<p>飯山市では 個人宅に対する除雪支援として次の2つの事業を実施しています。 ○雪かき支援事業(雪下ろし、おろした雪の除排雪) ○高齢者等玄関先除雪支援事業(玄関から市道までの1m幅の緊急避難路確保) この事業は、自らの労力では除雪が困難な世帯に対する支援であり、利用には次に掲げる要件があります。</p> <p>『雪かき支援事業』(子育て世帯に関係する部分を抜粋) ① 母子・父子世帯(現に配偶者がいない65歳未満の母又は父と18歳未満のみの世帯) ② 高齢者世帯(65歳以上のみの世帯又は65歳以上と18歳未満のみの世帯)と①の母子・父子世帯の混合世帯</p> <p>『高齢者等玄関先除雪支援事業』(子育て世帯に関係する部分を抜粋) ① 母子・父子世帯(現に配偶者がいない65歳未満の母又は父と18歳未満のみの世帯) ② 高齢者世帯(75歳以上の者のみで構成されている世帯又はこれらの者と18歳未満の者のみで構成されている世帯)と①の母子・父子世帯の混合世帯</p> <p>なお、それぞれの事業には上記の要件に加え、所得要件があります。 これら2事業は、現在対象世帯がそれぞれ250世帯前後あり、支援する事業者等が限界に近い状況であり、支援者とのマッチングをお願いしている区長におかれても支援者の確保に大変苦慮されています。担っていただく人材の確保が両事業とも課題となっており、ご意見に対応することは非常に厳しい状況です。</p>	-
18	<p>相乗りタクシー等、新しい事業が始まって良いと思っている。透析を受けている人は公共交通機関ではカバーできない部分もあるので、そういった方の支援も盛り込んでいただけたらと思う。</p>	<p>いいやま相乗りタクシー実証実験においても透析患者の利用があり、そういった方への支援は重要な課題であると認識しています。一方で、障害等級や所得等の要件を満たす方を対象に、タクシー券を交付しており、非課税者である人工透析患者の方へは、通院費助成を行っておりますので、制度周知に努めてまいりたい。実証実験の結果も踏まえながら、関係部署で連携しよりよい支援策を検討していきます。</p>	-
19	<p>障がい担当の保健師さんが抱えている件数が多いので、多忙すぎて声かけるのが申し訳ない感じがあるので改善してほしい。</p>	<p>職員配置については、必要最小限の人員で最大限の効果が図れるよう、人件費の抑制に努め、限られた人材を効果的に活用し、効率的かつ持続的な組織の実現を図ります。 少子高齢化や家族構成の変化から、障がい福祉サービスへのニーズは複雑化・多様化しており、困難な課題を抱えている方も多い現状です。現在、保健師1名を中心に障がい福祉関係の相談・支援業務の対応を行っていますが、令和8年度(2026年度)からは保健師1名と助産師1名を増員する予定としておりますので、これにより課全体の職員体制強化を図り、円滑な支援と業務の推進を目指します。</p>	●
20	<p>熊に実際会ってしまった時の対策や教育を、子どもたちや地域の訓練として行ったらどうか。</p>	<p>近年の熊の出没状況から、安全意識を高めることが重要であると認識しており、熊の生態や行動特性の正しい知識を身に付け、近づかない・遭遇しないための行動を徹底するなど、危険回避を重視した啓発や教育が必要不可欠です。市では、専門家から熊の生態や出会わないための対策、遭遇時の対応等について学ぶ、「クマ学習講座」を各小中学校で開催しています。 また、本年度開催した市民向けの講演会を新年度でも実施し、市民のクマに対する知識の向上を図ります。また、対策動画等の提供も可能です。</p>	-
21	<p>スクールバスのバス停までの道のりが、民家もなく熊が出そうで危険なため車で送迎している。登校時だけサイレンをならしてパトロールをしてもらったり、爆竹をならしていただいたりすると良いと思う。要所要所でならず鐘のようなものも設置していただけたらいい。</p>	<p>児童生徒の安全確保を考え、学校や地域、関係部署と連携し必要な対策について検討します。また、クマの出没状況をみながら、広報車等でのパトロールを実施し、必要に応じて爆竹等も使用してまいります。引き続き、熊等の出没情報の把握と学校・保護者への迅速な情報提供に努めます。</p>	-

飯山市総合計画等評価検証委員会からの意見に対する対応方針

No.	内 容	対応方針	令和8年度 から 実施予定
22	泊るホテルもないが、住めるアパートもない。東京から移住したいという方が単身で入れるところがない。市営住宅も空いていると思うので、空いているなら住んでもらえば良いと思うがどうか。	2025年12月23日現在、市内の民間アパートにおいては9棟13室の空室があり、うち1棟6室は新たに建設された物件であり、年々その数は増えています。 また、移住定住促進住宅(サンコーポラス飯山)も市外からの単身入居が可能な居室があり、空き状況によってご案内できるものと考えております。その他、市営住宅もごさいますが、入居にあたり一定の所得要件等があり、すべての方が入居できるというわけではありません。一人でも多くの方に住んでいただけるよう、不動産業者と連携しながら、民間物件も含め住まいについてのPRを積極的に行います。	-
23	産婦人科がないため、飯山市で出産できない。また、子どもが小さいときに救急で見てもらえなかったことがある。自然体験等で訪れる子どもも含め、診療してもらえるところを増やせないか。	産婦人科や小児科の医師確保は困難な状況にあります。市内医療機関と連携し、医師不足解消に向け取り組みを続けているところではございますが、現状での医療体制でご理解いただきたいと考えております。 また、妊産婦さんの産前産後ケアを充実させるため助産師の採用を計画しており、相談体制の充実を図りながら安心して出産や子育てができる環境づくりを進めます。	-
24	小学校の統合により校区が広がった。親の送迎がないとクラブ活動に参加できない場合もある。また、コーチ不足等の問題もあると思うが、学校のクラブがなくなるなど、子どもの活動の場が失われていくことがないよう、何か良い方法はないか。	小学校においては、中学校のような教育課程上に位置付けられた部活動は原則として設けられておらず、放課後の活動については、地域クラブやスポーツ少年団などが中心になっているものと承知しております。 学校統合は、より良い教育環境を確保するために進めてきたものですが、その影響により、子どもたちの活動の場が減少することは、成長の機会を失うことにもつながるため、課題であると認識しております。引き続き、関係者との情報共有を行いながら、適切な対応に努めます。	-
25	若者の転出が多いが、若い人が外に出て、いろいろ学ぶことは大切なこと。そのうえで、飯山で暮らすという選択肢をなくさないよう、飯山に帰ってきたいと思える魅力を備えることが必要。また、今住んでいる方を留める、U・Iターンの人を増やすために、若い世代が飯山に住み続けたいと思える施策を強化していただきたい。	若い世代が一度市外に出て学びや経験を積む重要性を認識しつつ、若者の転出問題には危機感を持ち、「飯山に帰りたい」「飯山で暮らしたい」と思ってもらえるまちづくりを目指し、様々な施策を進めています。具体的には、若者世帯の婚姻に伴う新生活を経済的に支援する「結婚新生活支援事業」、奨学生の就職を応援する「奨学生就職応援金」、新卒者や北陸新幹線での通勤を支援する「JR通勤補助金」、首都圏などからの移住・就業を促進する「UIターン就業・創業移住支援事業」など、これらの支援事業を活用しU・Iターンされる方も増加しているところです。 今後も若者のニーズに応じた働く場や地域の魅力を活かした産業の創出、子育て世代への総合的な支援の強化を検討し、若い世代が飯山に住み続けたいと思える施策の充実を目指します。	-
26	農業は後継者不足が課題。空き校舎を、若者が実際に住んで農業体験をしてみたり、地域の人と交流してみたりできる場に活用してはどうか。また、農業機械は高額なので、農業を始めやすくするための補助金等があるといい。	旧4小学校の後利用を検討するなかで、農業体験等についても検討を進めます。 また、来年度から中小規模の農家も対象とした農業機械等の導入や更新に対する補助事業の予算化をしています。	●

飯山市総合計画等評価検証委員会からの意見に対する対応方針

No.	内 容	対応方針	令和8年度 から 実施予定
27	<p>人が集まる場づくりが大事。新幹線駅があるのに駅前の開発が進んでいない。今ある資源を活かした拠点づくりを行い、発信力も磨く必要がある。また、どうしても人口は減少していくため、最小限の人員で今の機能をどう維持するか、集約化なども考えなければならないときがくるかもしれない。移住者も大事だが、今いる方々への支援、次へつなぐ支援も大事。</p>	<p>商業、医療、行政、教育・福祉等の生活サービスを提供する都市機能や居住地を、中心市街地の中心拠点や戸狩野沢温泉駅周辺の北部拠点、各地区の生活拠点へ誘導し、人口減少に対応した都市的経営・環境負担軽減に向けて、歩いて暮らせるまちづくりを進めるとともに中心拠点と周辺拠点を結ぶ交通ネットワークの維持・強化を図り、高齢者等の移動手段確保に努めます。</p> <p>また、文化交流館「なちゅら」にナカミチや、協力隊OGによる起業の一環として、空き店舗を活用した「なから場」を整備し、市民や来訪者の交流を促進してきました。今後も、地域住民等の意見を踏まえながら、廃校や民間施設を活用し、人が集まる場の創出を図りたいと考えています。</p> <p>集落で安心して暮らし続けられるよう、除雪の効率化や集落内道路網・ライフラインの確保に取り組み、また、地域内での助け合いによるコミュニティづくりや生活サービス機能の維持に努め、SNS等を活用し、各集落の歴史・文化・自然等の魅力を世界に発信することで交流を促進し、賑わいやコミュニティの形成を図ってまいります。</p> <p>また、持続可能な集落づくりを進めるため、地域おこし協力隊による新たな価値創出や、集落支援員による活性化対策や集落活動のあり方等を検討してまいります。</p>	-
28	<p>飯山にとって、雪は良いこともあれば課題でもある。飯山を好きな方が語り合う場があれば、新しい視点が生まれると思う。</p>	<p>市民が語り合える場(情報交換会等)の開催について検討中です。</p>	●
29	<p>子どもの頃から雪と親しんでいれば、大人になって雪を邪魔ものと思うことがないのではないか。子どもの頃から気軽にスキーができる環境を生かして、もっとスキーをしたり、雪と遊ぶようになるといい。スキーなどの商売にも関わりやすくなるのではないか。</p>	<p>子どもの頃から雪に親しむ体験は、雪国で暮らす楽しさや理解を深め、雪と共生する意識を育む大変意義あるものと考えており、学校教育の中でも、スキー学習や雪国ならではの学びを大切にまいりました。今後も、安全面に十分配慮し関係団体との連携を図りながら、雪と親しみ、楽しみながら学べる機会の充実に努めます。</p> <p>また、保護者が日常生活の中で子どもと一緒に雪に触れる機会を持つことや、地域の行事等に参加することは、子どもが雪を身近なものとして捉えるうえで大きな役割を果たすものと考えますので、今後も地域の特色を生かした教育活動と、家庭・地域との連携のあり方について検討を進めます。</p> <p>また、飯山市索道協会において、市民のスキー振興を目的にリフト1日券引換券を配布しております。引き続き、より多くの市民が本件を活用できるよう制度の充実に努めます。</p>	-
30	<p>飯山は農業と観光に特化すべき。農業に関しては、人員をただ増やすのではなく、最低限必要な人員を決めて支えていくことが大事。次世代へつないでいくという長い期間でコントロールすることが大切だと思う。行政で利点を付加していくべきではないか。</p>	<p>飯山市の観光資源を最大限活用し、特色ある観光地としてブランド化を推進していくとともに、観光地整備や各観光協会等との連携、情報発信の強化に努めます。</p> <p>地域の中心的担い手への農地の集積・集約、育成を推進しつつ、耕作条件の悪い中山間地の農地や水路・農道等の基盤維持には多様な人手が必要不可欠であるため、新規就農者や中小規模農家を含めた農業従事者の確保・支援を引き続き実施します。</p>	●
31	<p>高齢化により空いた民宿を、外国の方が買う傾向にあり、日本の里山の風景や、外国人が少ないスキー場に魅力を感じて訪れる客が離れてしまうのではないかと不安になる。空いた民宿を市が管理し、お試し滞在などを行える施設として、地域おこし協力隊などを活用しながら、雪国ならではの魅力を発信できると良い。</p>	<p>宿泊施設の維持管理や運営には専門的な対応が必要となるほか、老朽化に伴う多額の修繕費用も見込まれることから、市が直接管理・運営を行うことは困難ですが、不動産や宿泊事業者など、民間事業者が主体となり運営することで、より効率的で安定した事業継続ができると考えております。また、市が直接介入することで、既存の民間事業者の活動を妨げてしまう恐れもあります。市としましては、空き家バンクの活用や移住体験・お試し滞在につながる活用について、ご意見を踏まえながら民間事業者や地域と連携し研究します。</p> <p>協力隊の中には、空き民宿の活用をミッションとして活動している隊員がおりますが、所有者との調整や、居住者がまだ住んでいることなどの理由から、課題解決が困難な状況にあります。今後も協力隊の募集にあたり、空き民宿の活用や民宿の後継者づくりをミッションとしてマッチングをし、課題解決を図ります。</p>	-